

ひなたぼっこ通信

2018年
5月号

ケアハウスから

「新年度になって」2階

新年度になりました。ケアハウスにも新入職員が配属されました。一つ一つの振る舞いが初々しく、思わず私も新入社員の頃を思い出しました。はるか昔のことですが・・・陽気もここで急に暖かくなりました。桜も満開になり、ケアハウスも桜のお花見と食事ツアーが始まりました。

参加された利用者みなさんは、「桜きれいだった!」「食事もおいしくて桜を見ながら食べられて良かった!」「また行きたい!」など弾ける笑顔で話して下さいました。今年も元気で、爛漫たる桜を堪能された喜びが、笑顔から伝わってきました。

春は気温の変動が大きい季節。夏日を記録する暑い日があるかと思えば、冬に戻ったかと思わせる肌寒い朝もあります。みなさん、体調管理に気を付けて、また来年も元気で、一緒に桜を見ましょうね。(5)



「諏訪湖の桜も散って」1階

諏訪湖の桜も散ってしまったので、開田高原へ桜を見に行ってみようと思いました。道中、道の駅日義木曾駒高原へ寄ったときの事でした。階段脇の赤い看板が目にとまり読んでみると「木曾牛牛たこ焼き」なる文字を発見しました。

読んだ時の第一印象はネーミングの珍しさに購買意欲を掻き立てられ購入。早速食べてみました。見た目は普通のたこ焼きと同じ、マヨとネギが乗っていました。食べた感想は、中はフワトロで牛肉の歯ごたえと牛肉のうま味がマヨと出し汁に絡んでこれがまたうまいこと!絶品です。6個をペロリと食べ終わり、こんなおいしいものを誰が考えたのだろ?ちょっとたこ焼きのルーツについてネットで調べてみました。

創始者は大阪市西城区「会津屋」とされています。昭和8年、ラジオ焼きを改良し、従来使用していたこんにゃくの代わりに醤油味の牛肉を入れて肉焼きとして販売していたそうです。昭和10年に、タコと鶏卵を入れる明石焼きに影響を受けて、タコと鶏卵を入れるようになって、たこ焼きと名付けたそうです。この時代の食べ物、ケアハウスの利用者の方々も食べていた方もいらっしゃるかと思えます。今回ルーツを調べたことで、木曾は私にとって、たこ焼きに興味を持つきっかけとなり、美味しい物を発見した場所ともなりました。

お腹を満たした後は、橋を渡り、山道へと入っていきます。住宅の庭先一面に白やピンクの芝桜、道路の両脇に満開の桜を

見ながら開田高原を満喫してきました。

皆様も木曾に行ったら、きは、寄り道して色々食べ歩きをしてみてください。美味しい発見と出会えるかもしれません。

(k)

グループホームから

「待ってました!癒しの桜!」1階

待ちわびていた春の癒しの“桜”が満開。利用者みなさんとワクワクドキドキのお花見ドライブに行ってきました。信濃境駅方面や原村の深叢寺に行き、見事に咲く桜を満喫してきました。

帰りの車の中では感極まっていたか、国歌の「君が代」が歌われました。また、国道沿いには無人のお花屋さん可愛らしいお花。施設に飾るお花を選んでみると、お花を育てた方がお見えになり、車に乗っていたご利用の方が「窓を開けて!」とおっしゃいました。窓を開けると選んだお花を手にし、笑顔で「有難う御座いました。」と和やかなふれあいもありました。

今、施設のホール窓には可憐な八重桜が咲き誇りました。そして出来た、ご利用者様の思いのこもった一句。

「桜咲く コーヒー飲みつつ 春の風」

「桜咲き 天気光 静けさよ」

「里は梅 桜もおどろて うきうきと」





宅幼老所から

昼夜の寒暖差はありますが、昼間の陽気が春を感じる季節となりました。宅幼老所では天気の良い暖かい日に、原村にある深叢寺へお花見に行ってきました。

満開の桜を鑑賞されたり、写真を撮られたり、思い思いのお花見を楽しまれていました。「綺麗だね!」「見事な桜だね!」と皆さん笑顔で話してください、利用者様の笑顔も満開の楽しいお花見となりました。

※ケアハウス2階利用者 M様がお花見ツアーに参加され俳句を作ってくださいました。ご紹介いたします。

「雨中の 桜悲しきまでに 美しき」

やわらかい雨が降って、車窓からながめる桜並木、一生忘れられない絶景でした。雨に感謝!

「咲き満ちて 風にこぼるる 桜花」

晴、寺の歴史の長い桜満開、手にとりてにぎりしめました。職員のコマやかな心づかい仲間のあたたかさ、ほんとうにありがとございました。感謝!
観桜日 四月十八日

放課後等デイから

「春はモノ作り」

放課後等デイには、「モノ作り」が大好きな子ども達が少なくありません。ある日の光景を紹介します。ある時、併設されているお達者広場のスタッフが持っていた空の段ボール箱を見つけたし君は「ボクにください」と言ってもらいました。段ボールを使って船を作ろうと思っていました。それを見たし君は「僕も欲しい」と言いました。

「あげない!」とし君の即答です。「ちようだい!」「あげない!」「半分でもいいから!」「あげない!」取り付くシマありません。

支援者から助け舟を出しました。「2人で力を合わせてするんだったら、いい案を教えてあげる」というと、一も二もなく「仲良くする!」と声を揃えます。じゃあということで「もう一度お達者広場の人に聞いてみる。それが駄目だったら西友にもらいに行く。これでどう?」と提案しました。

2人で声を合わせて「段ボールをください」と2度ほど練習して、お達者広場のスタッフにお願いに行きましたが在庫はなく、西友に行つてやっと段ボール箱をもらうことができました。

空の段ボール箱を抱えて、飛ぶようにひなたぼっこに帰る2人の声の明るいこと言ったらありません。

ひなたぼっこに帰つてくると、休む間もなく制作に取り掛かるのでした。「ガムテープ貸してください。」「はさみありますか?」となぜか丁寧な言葉です。黙々と段ボール箱に何かをつけたら、あるいは穴を開けたり・・・。

1人は「船を作る」といい、もう一人は「飛行機を作る」と言つて作業を続けました。

ほぼ同時に「できた!」と 船と飛行機が完成しました。実に満足そうな表情の2人でした。

しかし、支援者の感性が鈍いためでしょうか、どちらが船で、どちらが飛行機なのか、にわかに判別することができませんでした・・・ごめんね。



理事長 森 正明

〒399-0211

富士見町富士見1-650-1

TEL 0266-61-2335

FAX 0266-61-2336

